

議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係	合 議

このとおり作成しましたので報告します。

第 11 回 議会改革調査検討特別委員会

平成 30 年 12 月 10 日(月)

13 時 00 分～14 時 00 分

第 4 委 員 会 室

【出席者】 西田委員長 牛尾副委員長 西川委員 村武委員 柳楽委員 小川委員

野藤委員 笹田委員 布施委員 道下委員 田畑委員 澁谷委員

【議長団・委員外議員】川神議長、川上議員

【事務局】 小川局長 篠原書記 新開書記 鎌原書記

議題

- 1 政務活動費の交付に関する後払い（精算払い）について

資料 1

西川委員～1 案

笹田委員～3 案又は 4 案

布施委員～1 案

牛尾副委員長～政務活動を制限する形になるのは良くない

野藤委員～1 案

少数意見を採用するのが良い

澁谷委員～2 案

再度、会派に持ち帰り次回協議することとする。

- 2 事務事業評価について（三豊市、丹波市議会の先進事例 別紙 から意見交換）

各常任委員会でテーマを絞って、取り組む方向で検討する。

フローを作成する。

- 3 その他

澁谷委員～一般質問のあり方を議論してほしい。

先進事例はないか→議員研修会を活用し詳しい講師を選定

○次回開催 1 月 21 日(月) 10 時 00 分 第 4 委員会室

【詳細は会議録のとおり】

(開議 13 時 00 分)

【会議録】

西田委員長

ただいまから第 11 回議会改革調査検討特別委員会を始める。本日の議題の 1 つは、政務活動費の交付に関する後払い(精算払い)についてと、もう 1 点は事務事業評価について、これは先般三豊市・丹波市議会に視察した結果を踏まえて協議したい。

議題 1 政務活動費の交付に関する後払い(精算払い)について

西田委員長

お手元にある資料について、次長から説明を求める。

篠原次長

(以下、資料 1 をもとに説明)

西田委員長

事務局から 5 案ほど説明があった。今まで議会に対しては政務活動費として当初に 10 万円が振り込まれ、それを最後に精算する格好になっていたが、それに対して監査から議会に対してこのような申入れが何年か続いたため、皆さんと議論する機会をとということで事務局から提案いただいた。委員はご遠慮なくご意見いただきたい。西川委員。

西川委員

デメリットが最も少なく、メリットが多い 1 案を採用するのが良いと思うが、メリットの項目にある「議員が立替払いをすることで、安価に積算する意識が働く」とは、どういう意味か。

篠原次長

前払いで 10 万円が手元にあると、使途がはっきりしていれば良いが「使わねばならない」という意識にもなりがちと考える。立替なら十分吟味して使う意識が働くのではと。監査からもそのような指摘でこの 3 年間ずっと、後払いを検討するよう要請されていた。

西川委員

そんな意識の低い議員がいると思われるのは心外だ。

西田委員長

牛尾副委員長。

牛尾副委員長

「安価に積算するような意識が働く」という文言は非常に、議会に対する信用も無いのだと思った。現状では常任委員会でもなるべく早割等色んなサービスを使いながら有効にやっている。手元に 10 万円あるからと、あえて割高なものを選ぶような人はいないと思うので、出来ればこの文言は外してもらった方が。議員側からすると失礼な気持ちになるし、議論をする上でも気が楽だ。

篠原次長

このとおりに監査の方が言われたのではなく、事務局側がこのような失礼な表現を使ってしまった。

西田委員長

そこまで深い意味あいはないが、若干そういう意識も働くのではという軽い気持ちで書かれたということだね。澁谷委員。

澁谷委員

ここに書かれた内容は自分は良く分かる。3 万円あれば新幹線を使うが、無かったら夜行バスを使ったりする。余裕があれば楽な手段を使いたいのが人情だ。そういうことも含めての発言なのだろうから、僕はおかしいとは思わない。

西田委員長

布施委員。

布施委員

会派で聞いてみた。5 案示されているが 1 案で。デメリットが書いて

西田委員長
笹田委員
篠原次長

笹田委員
篠原次長
笹田委員
西田委員長
野藤委員

西田委員長
澁谷委員

西田委員長
小川委員

西田委員長
笹田委員

牛尾副委員長

西田委員長

あるが、年度当初に 10 万円もらっても口座を別にしているわけでもなく、もらったらその中から裁量で使っていく。管理しているわけではなく、10 万円を超えても必要があれば自己負担するので、普段から立替という意識があるためデメリットの部分は今更気にならない。精算後払いはメリットの方が大きい気がする。会派も 1 案が良いという結論になった。

笹田委員。

先進自治体では、どういう形が多いのか。

全国的に市レベルだと 10 市程度しかないが、見てみると半期で精算払いする手法が一番多かったのではと思う。都度精算する所もなくはない。

1 案の先進事例はどうか、少ないのか。

数少ない中でも少なかったと思う。

政務活動費が多いから出来ないのかな。

野藤委員。

会派内では 1 の案に賛成。金額も多くないし 1 年に 1 回の精算の方が、事務局も議員も両者にとって負担が少ないのかと思う。金額が増えれば一度に精算は厳しいかもしれないが、今の政務活動費の金額なら 1 回で十分ではないかと思っている。

他にあるか。澁谷委員。

折衷案として、子育て世代の方は出費も多い。資金の需要からすると 1 を尊重しながら半期で妥協するのが良いのではと私は思う。

小川委員。

2 案から 4 案までは恐らく年度末の精算払いが基本で、中でも半期だとか高額の場合は申し出れば出来るということで。それが申し出ない場合は年度末の精算という形になるのかと思ったのだが、その認識で間違いないか。

笹田委員。

私はずばり子育て世代で 4 人も居て、立替は正直難しいかなと思っている。もしあれば年度末で良いが、これを見る限り高額の場合は難しいと思っているので、3 か 4 だとありがたい。

僕らの議員報酬は潤沢にあるわけではないので、そのために政務活動費がある。年度末まで待たなければ返ってこないようでは、政務活動費不足で議員活動が制限を受けるようなことは避けるべき。だから活動費が必要な時には速やかに出るようなことを考えておかないと。この件に関しては少数意見を優先して、その方たちに合わせる形が一番良いのではないかと思う。

各々からのご意見では 1 案が多いことは多かった気がするが、少数意見の中にも重要な意見があった。会派で既に話し合われたところもあったが、ここで決めてしまわずに、会派に一旦持ち帰っていただいて 3、4 案ではどうだろうかとの再度協議していただけないだろうか。よろしいか。

(「はい」という声あり)

西田委員長	会派内で話し合ううちに3、4案をミックスしたような案が出るかもしれないし、会派でまた報告いただきまた次に検討したい、そこである程度決めてしまいたい。その時には委員が会派代表で意見を持ち寄り、多少それが変更になっても委員の決断に任せるという了解を会派にいただきながら、次回に持ち寄って方向を決めてしまいたい。そういうことでよろしくお願いしたい。柳楽委員。
柳楽委員	4案にて「ただし、3万円以上の請求はその都度できることとする」とあるが、その前段で視察や研修というのが3案で出ている。視察や研修以外にて3万円以上の金額になるようなこととは、どのようなものがあるのか。
西田委員長	更に具体的な支払方法について会派内できっぱり決めて来られても良い。そういうのを期待している。よろしく願います。
野藤委員	その都度というと事務局の負担がかなり厳しいのではと思ったりするのだが。
牛尾副委員長	3、4案はその都度ではなかろう。
篠原次長	5案が都度精算で、確かに事務が煩雑になる。
西田委員長	局長。
小川局長	先ほどから話を聞いていて、5案をまず除いて欲しいと。1案も除いて欲しいと。3、4案は先ほど小川委員が言われたように、出来るという話なので、協力いただける方は協力いただいて年度末に一度にやってもらうのを原則にしておいて、それでは厳しい方は間で請求してもらう。そういう共通認識が取れていれば、それで良いのかと。
西田委員長	布施委員。
布施委員	委員長が言われたのもそういうことかと。
西田委員長	そう。柔軟に考えて。事務局の負担も出来るだけ無い方向が良いとも思うし、一括に年度末精算が基本としながらも、3、4案の辺りでもOKするという、その辺も含めて。それは会派で協議していただきたい。それは次回のこの委員会ではよろしいか。
	(「はい」 という声あり)
	ではそのようにさせていただく。
小川局長	来年度からはこの規則で政務活動費を運用したいので、次回には決定していただきたい。
西田委員長	出来れば会期中に会派で協議して欲しい。議題1についてはよろしいか。
	(「はい」 という声あり)

議題2 事務事業評価について（三豊市議会、丹波市議会の先進事例 別紙 から意見交換）

西田委員長	議題2について。この委員会では香川県三豊市議会、議会運営委員会では兵庫県丹波市議会に視察に行かれた。そのことで事務事業評価の意見交換をしたいが、先般の流れから、先進事例の説明をすることになっ
-------	---

澁谷委員長
西田委員長

ていたので、三豊市議会とは私から、丹波市議会については澁谷議運委員長から、説明をしたい。まずは三豊市の説明をする。

(以下、別紙をもとに説明)

続いて澁谷委員長から丹波市議会のご説明をお願いします。

(以下、別紙をもとに説明)

議運メンバーからの補足説明はあるか。

(「ない」という声あり)

西田委員長
西川委員
澁谷委員長

西川委員。

丹波の事務事業評価の流れだけでも、どこにあるか教えてほしい。

流れはこの資料 3 に載っている。6 月からスタートして決算認定をする流れに沿いながら、出納閉鎖からスタートすることになっている。三豊が画期的だと思うのは、選定を予算決算委員長が選定して議論して評価していく形なのだが、これはどちらかというと常任委員会が主流になって動いているような印象があった。

西田委員長
牛尾副委員長

牛尾副委員長。

議運委員長が言われたように、丹波については政策討論会の印象が強くて、僕らも謳ってはいるけどやってないのでやるべきだと感じた。三豊市は浜田市を参考に作ったと言われたので、面食らったところがあった。委員長が言われるように、三豊市の流れの方が我々はやりやすいのではないかと思う。皆さんの同意が得られれば、この流れでやっていけば良いのでは。

西田委員長

副委員長から、三豊市の流れの方が浜田市議会にとっても近いのではないかという意見が出た。それについてご意見は。澁谷委員。

澁谷委員

理想は三豊だと思うが、三豊方式でやるなら常任委員会がすごく丁寧に評価したり、委員会を開くようでないとい追いつかないことはご理解いただきたい。丹波は行政シートをもらってそれを評価するのである意味楽。これは調査分析から入るので、その辺の自覚をしていただきながら進めた方が良いのではないか。

西田委員長
野藤委員

野藤委員。

三豊のフロー図は月が黒丸になっているが、出納閉鎖以降 6 月くらいからの始まりになるのか。事業評価をするということなので、そのくらいからかと。同じようにできるのでは。

西田委員長
野藤委員

恐らくその辺だと思う。

全議員に事務事業一覧を配布し、これを基に各議員が出してくると。やはり 6 月以降だね。

西田委員長
小川委員

小川委員。

最終的に結果をまとめる時に三豊の場合は評価結果の形で、決算審査報告も含めた報告になっている。丹波市は最終的には提言となっている。提言の方が重みがあって、報告と言えば軽い印象が。名称の問題もあるがどちらが相応しいのだろう。三豊は決算審査も併せた形で報告すると、

西田委員長
牛尾副委員長

浜田市が現行でやっている付帯意見と重複する感じも出てくるのかと心配した。事業評価部分と決算認定にかかる部分の付帯意見とは、いくらか区別する必要があると感じた。一番重要なのは評価をするのは各特別委員会の中での議論となるがこれもこういった形で、恐らく1つの事業に対して賛否の調整が難しくなるのではないかと懸念する。進め方もいくらか検討しておく必要があるのでは。

良いご意見だと思う。副委員長。

小川委員が言われたように我々予算決算委員会では付帯意見を付けてどうのこうのがあるが、それはあくまでも決算認定に対する付帯意見であって、これをやる場合は市長部局が当然やるべき事業を実現してない。それはおかしいのではということで、是非新年度の事業でこういうことをやるべきではと、そういう言い方をするような提言だと思う。決算認定にあたっての付帯意見とは別に、本来このような事業をやるべきではないかということを議長から市長に言ってもら。そういう2本立てを認識された方が。多分そうなるのではと思う。

西田委員長

9月定例会で予算決算委員会を開けば、事務事業評価についての別枠で時間をとらないといけないだろうし、日程的にも配慮いただく可能性も十分ある。そういったことも含めて総合的に。

牛尾副委員長
西田委員長
笹田委員

やりながら学んでいってまとめていくのはどうか。

笹田委員。

三豊市のように8つくらいの提言なら時間を取らずにやれると思う。それが20、30となると議論数が増えるので、各常任委員会3つでも2つでも選定してやれば、それほど時間もかからないし、やってみての評価は委員会が出せば出来るのではないか。

西田委員長

あまり肩に力を入れすぎないように。特に重要な事務事業については皆で一緒に評価して。あまり数を欲張らずできる範囲内でやってみる、まず一步を踏み出すのも重要かもしれない。道下委員。

道下委員

名称は議員間討議だったか。

(「政策討論会」という声あり)

道下委員
澁谷委員
西田委員長
小川局長

あれが政策討論会か。あれは丹波も三豊もどちらも一緒なのか。

政策討論会は真庭だ。

局長。

皆さんの意見を聞くとやることについては特に異論は大きくないので、実施設計についてはもう少し時間をかけて、もっと省略したり簡単に出来るところがありはしないかと思うので、作ってからお示しさせてもらえば。20も30もやるんじゃないかと、8つとか各委員会3つとかで絞ってとりあえずやってみようという話なら、そういう設定をしてみ、執行部とも話をしてみたいがどうか。

西田委員長

局長が言われたように、やる方向で進めていく。あまり欲張らずにまずやってみよう。三豊の流れからして、浜田市議会でも十分そのまま

対応していける気がする。流れについてはもう少し浜田市議会なりにフローを作って検討してみたいと思う。よろしいか。

(「はい」という声あり)

西田委員長
牛尾副委員長

他に。牛尾副委員長。

澁谷委員からあったように、あくまでも常任委員会で揉むことを1行入れておかないと、今までそういうことをやって来なかったの、ここだけは文言で組み込んでおかないと、各常任委員会の中の議員が十分議論して1つに絞り込む作業を課題として置いておかないと、それがスルーされたら折角こういうことをやっても意味ないので。そこだけには必要だと思う。

小川局長

4月からは通年会期制も始まり委員会も随時開けるので、執行部には負担かけないように、議員さんには負担が増えるかもしれないが覚悟していただいて、精力的にやってもらう。

西田委員長
柳楽委員

そういう導入に当たってなど文言も付け加えて。柳楽委員。

お話を聞いていて私の中でどうしても、政策討論会のことすごく心に残っていて。政策討論会についても各常任委員会で内容を決めて、練ってという同じような感じのことをやっていくのかと思ってしまっているのだが。

西田委員長
澁谷委員

澁谷委員。

政策討論会の方がはるかに難しい。なぜなら政策討論会は各常任委員会で項目を選定しなくてはならない。この事務事業は過去の事業をピックアップして評価すれば良いので、極端に言えば事務事業報告書の中から担当部署を決めてやれるので後追いでもいくらでもできる。政策討論は委員会の見識も判断されるし難しいので、あまり一緒に考えないように。これは付録だ。

柳楽委員長

そうなると尚更すごい感じがして、これをやるなら真剣にやっていないといけないと思うので、並行してやっていけるのか。正副常任委員長にはかなり負担がかかると思う。

西田委員長
澁谷委員

澁谷委員。

あまり深刻に考えないように。今年やって政策討論会の議案が全く出ないこともあり得るし、それならそれで構わないと言っている。取り組んでみようという話。ただ、常任委員会がベースになるので月一くらいで開催していただくようお願いしているが、1月からそのように準備していただかないと8月の政策討論会に間に合わないと思うので言っているのだが、事務事業の方は後の評価なので、それが出来ればこれは簡単に出来ると思う。正副委員長で分担しても良い。いくらでもやり方はあると思う。あまり深刻に考えないでほしい。

西田委員長
牛尾副委員長

一番負荷がかかる澁谷委員が言われるので。

いまの話のように正副委員長で担当を分けるようにしたら良い。委員長が全部背負うと、本来はそうあるべきなのだろうが大変なので。

澁谷委員 柳楽委員	やる前から白旗を上げてもらっては困る。 白旗を上げないために聞いておかないといけないと思って。やるからにはきちんとやらないと。
西田委員長	来年度からは通年会期もある。通年会期を充分活用して各常任委員会 がさらに活性化すれば。楽な気持ちで取り組んでいただけたらと思う。 皆で一緒に取り組めば何も心配ない。 他にご意見は。 (「なし」という声あり)

議題３ その他

西田委員長 澁谷委員	その他何か。澁谷委員。 ここで一般質問の在り方について、また時間を取ってお願い出来ない かと思っている。最近、窓口質問や活発な議論にならず原稿読みも増え ている感じもする。在り方を議論していただきたい。事務局に先進事例 や内容を調査して資料提出もお願い出来ないかと。
西田委員長 牛尾副委員長 西田委員長	以前は議員研修でやった時の講師は廣瀬さんだったか。 今は大学教授だ。 議員の活動や一般質問等、議会運営の諸々については我々が言いにく い部分もあるので、相応しい講師先生がおられたら来ていただきながら、 一緒に勉強したいと思う。
牛尾副委員長 小川局長	局長、廣瀬さんは今は議長会を外れて大学の教授か。 明治大学の専任講師なので、ギャラが高いと思う。議長会だったから 安く来られていたので。
牛尾副委員長	議長会に他の人材もおられるだろうから。銘々の議員が「これが本領 だ」と言うより、客観的なことを言ってもらえるような講師さんの話の 方が頭に入りやすい気がする。
小川局長	一般質問とは市政の何について聞いても良いので。ただ、基本的にこ れだけ押さえて欲しいという部分を共通認識で持っておいていただけれ ば良いと思う。数字だけ聞いて終わらないとか、２回目で数字を聞くな よとか、前の答弁を受けて再質問しようとか。ある程度は一般質問要領 を作っているが、これも手入れして、ここだけはきちんと押さえて質問 してくれと。質問を止めることはできないので。最低限の共通認識を持 てば良い気がしているので。
牛尾副委員長	課長クラスが熱心に再質問、再々質問と言う。こういう感じで言おう と思うのだけどと言ったら、答弁の時に急にペーパー読み上げる時があ る。こちらが映ってないときに。それは努力なのだが見た目が良くない。
小川局長	執行部側も一生懸命再質問の資料を読んでいる部長もいる。努力して ものは努力しているし。その辺はまた学芸会にならないようにいう話か ら始まった部分なので、私から話をしておくが、質問の仕方についても 僕も思うことがあるので、文献を調べてみる。議員研修についてはまだ

	決まってないね。
新開書記 小川局長	今依頼はしているが、投げかけている最中なので決まってない。 もし議員研修の部分でできれば一緒にやってもらうことも考えたいし、ちょっと時間が欲しい。
西田委員長	いまの件については議員研修で講師先生にきていただいて検証する部分も含めて、文言できちんと押さえて、事務局と一緒にお示し出来るような形に持っていきたい。よろしいか。
澁谷委員	1 回議論して共通認識を持たないと、なかなか階段を上るようには。どうしても易きに流れてしまうので。今はギリギリのところを議長が認めておられるが、議員側も自覚しながらやった方が良くと思う。
西田委員長	他にあれば。
	(「なし」という声あり)
西田委員長	では次回の予定を決めたい。政務活動費のこともあるので、その報告もしていただきたい。
牛尾副委員長 篠原次長	年内にもう 1 回やらないといけないのでは。 出来れば次回は 3 月定例会に向けて、会派代表質問の在り方、予算決算の在り方を、時期が近づいて再度検討しようということになっているので、それもさせていただきたいため、年明け早々くらいにやっていたければと思うのだが。
	(以下、自由討議)
西田委員長	次回は 1 月 21 日 (月) の 10 時からということで、決めさせていただく。
	(「はい」という声あり)
西田委員長 柳楽委員長	その時に政務活動費を決める。 先ほど次長が言われた代表質問や予算の進め方も、この時にということなので、会派で確認しておいた方が良くということか。
牛尾委員 柳楽委員長	持ち帰りもありではないか。 その時に話が出てまた持ち帰り。はい。それも含めて会派で話をしてきた方が良くのかと。
小川局長	一応やろうという方向だったので、あとは時間配分等の話になると思う。
柳楽委員長 小川局長	それは特に会派で話してくる必要はないか。 例えば今は最大会派が 60 分で、割り振ってやっているが、もっと短くていいとか、長くても良いとか、その辺の意見を持っておられれば、聞いておいてもらうに越したことは無い。
西田委員長	その辺のお話も会派でしておいていただけたら。
	(「はい」という声あり)
西田委員長	より良い形になるように色んな意見があった方が良く。よろしく。 では、以上をもって特別委員会を終了する。

(閉議 14 時 00 分)

浜田市議会委員会条例第 65 条第 1 項の規定により委員会記録を作成する。

議会改革調査検討特別委員会 委員長 西田 清久 ⑩